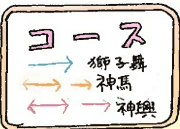


布引海岸 (富津岬)

富津岬の布引海岸には、弟橋媛の衣が流れつき、海岸近くの貴布祢神社に祀られている。海岸には弟橋媛の顔布漂着碑がある。



貴布祢神社
 弟橋媛顔布漂着碑

馬出し 14:00~15:30

オメシと呼ばれる神馬の鞍に神霊である幣束をつけ、吾妻神社から岩瀬海岸まで、オメシの後を神輿が続き渡御する。
 海岸では、二人の青年が馬の口を持ち、馬の両脇にしがみついて疾走する。神馬の疾走は1回、続いて副神馬の疾走が行われ、弟橋媛の櫓が流れ着いたところで、幣束をおろし埋納し帰還する。引き続き、神輿が海岸で神輿と海に入る溝めを行ったあと、還御する。(千葉県指定無形民俗文化財)



弟橋媛像



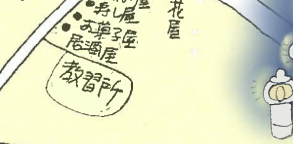
神輿 15:30~16:30



千葉県産業総合センター



富津市役所



元スタンド前 (神輿)

18:30 仁義引き渡し 元カマリン スタンド
 岩瀬→還御当番区
 (輪番制による共同責任)

神輿還御 18:30~20:30

氏子たちが提灯で神輿を照らしながら神社へ向かう。石灯籠と神社がライトアップされ、4区合同で神輿が神社を回り、安置される。

獅子舞 6:30~8:00

雌雄の獅子が、朝神馬が吾妻神社に向かう前、宝鐘寺から吾妻神社まで、参道の穢れを祓い浄化する。道中、獅子頭を上げ下げし、前後へ移動しながら進む。拜殿ではお囃子を奏で、その後神入り口欄間横の獅子屋台に安置する。

中村橋 (神輿)

12:00 仁義引き渡し 絹一中

JA大佐和支店 (神輿)

12:15 岩瀬

長西山 (神輿)

13:05 仁義引き渡し 中→岩瀬

岩瀬橋 (神輿)

14:00 (行き)
 17:00 (帰り)

丹マリ神さき

「丹マリ神さき」と呼ばれる白旗神社の前では、お祭りの掛け声、笛や太鼓の音も静かに通り過ぎる。その音、風も激しく中この地点でおおいに気配を上げたところ、大川が流れ多量の附注者を出したのだとか、それ以来ここを通過する際には、声を立てずに静かに通り過ぎるそう。

日本武尊と弟橋媛伝説

古事記・日本書紀で伝えられる日本武尊が東征により東国(筑紫)を大和朝廷の支配下にしたときのこと。走水(三浦半島)から船出して上総国(房総)へ向かった日本武尊は、大風により難船しそうになった。お伴していた妃の弟橋媛が日本武尊の身代わりになり海神の心を鎮めようと入水し死皮を鎮め、無事日本武尊は上総国へ上陸した。その7日後に海神に身を捧げた弟橋媛の櫓が岩瀬海岸に流れつき、どこからか一頭の馬が現れて櫓をくわえ、走水の海が一望できる吾妻山の頂上(吾妻神社)まで浮か上がったといわれている。また、身につけていた衣が流れ着いた場所が富津岬の布引海岸と伝えられる。

問い合わせ

富津市(市外局番 0439)
 生涯学習課 ☎80-1342
 秘書広報課 ☎80-1225
 商工観光課 ☎80-1291

オマリ神事 9:20~9:30

(高潮会館出発: 15~)
 オマリとは神前に供える儀のことで、唐竹を一對に併せた中央に出世魚(イナダ)をつくり下げ、若衆が神前に担ぎあげる。鳥居前では、「オイウ、オイウ」のかげ声とともにおしくらまんじゅうの渡御で、腕を絡み絡みながら神社へ向かう。拜殿に安置してある神輿にオマリを飾り、大囃子神事を行う。(富津市指定無形民俗文化財)



鳥居先 (神輿)

10:40 仁義引き渡し 宮元(西大和田)一編

吾妻神社 (神輿)

9:45 出発
 20:30 安置

獅子頭安置

8:00~

神馬 吾妻神社

9:00 鳥居先
 9:15 石段駆け上る
 9:18 祭典
 9:20 お祓い
 10:00 下山
 16:35 帰山

吉野小前 (神輿)

11:00 (行き)
 19:50 (帰り)

走水から上総国へ

ふるつるつ 神話のまち布流津(富津市の由来)

日本武尊と弟橋媛の軌跡をたどる

吾妻神社例大祭~馬出し祭~

西大和田区(宮元)・絹区・中区・岩瀬区

2019年9月15日(日)

